



小雀公園 里山通信



Vol.21 イトンボを呼び寄せるためのヨシ原管理

ゲームで遊ぶことが多い現代の子供たちも、やっぱり虫を見つけたときは目をキラキラさせています。そんな場面に出会うと、たくさんの生き物がいる公園になるよう管理をがんばらないといけないなと思わされます。そんなわけで春にはホタルが生息しやすいヨシ原管理に力を入れましたが、夏にはトンボがたくさんやってくるような環境づくりをがんばっていますのでご紹介します。

トンボにもたくさんの種類があり、開けた水面や浅い湿地など、好む環境も多様です。小雀公園にはさまざまなタイプの湿地があるため、横浜市では減少している希少な種類のトンボが見られることもあるそうです。ところが湿地は油断するとすぐに環境が変化してしまうため、手付かずの保全ではなく、手を入れて維持をしなければなりません。伊賀のため池は油断するとガマが繁茂してしまうので、開放水面を好むトンボのために、4年前にガマを除去する作業を行いました。そして昨年はイトンボが生息しやすい環境づくりをヨシ原で行いました。今年も引き続きイトンボのための環境づくりに挑戦しましたよ！

花の湿地園では、シオカラトンボなど中型のトンボが飛び回っていますが、イトンボの姿を見かけることはほとんどありません。ヨシ原に行くと数が多いわけではありませんが、イトンボを見かけることがあります。イトンボは日差しや乾燥に弱いため、花の湿地園よりも深い葉陰のあるヨシ原にいるのかもしれませんが。そこで日差しを遮り湿度の保たれた空間をヨシ原に作ることで、イトンボがより多く訪れてくれるように環境づくりを行いました。



↑ ヨシをかきわけ作業中！

生い茂るヨシをかき分け、水面と陸地の境目の刈り取りを行います。その時両側にヨシが残るようにすることで、日陰と湿度の保たれた状態の通路ができ、そこをイトンボが飛び回れるようになります。そして水面も見えるようになったことから、産卵できる環境も備わっています。なるほど、ヨシの間に通路を作るのね！というのは簡単ですが、人力で刈り取り、時に腰あたりまで深い水の中に入ったりと、なかなかハードな作業です。こんなに苦労してすぐに成果が表れるとは限りませんが、繰り返し作業を行うことで、少しずつ珍しい生き物が増えてくれるといいなと思っています。このようにぱっと見では気が付かないような作業を地道な努力で行っていますので、見かけたら応援してくださいね！



↑ 水面が見えるトンボの通路ができました！



小雀公園 ☎045-853-1945
<https://midocomi.com/kosuzumepark.html>
 横浜市指定管理者 緑とコミュニティーグループ

